

助成金・セミナー情報

他にも多くの助成金やセミナーがあります。詳しくは、[メイトム宗像](#)のホームページ⇒その他リンク一覧をご覧ください。窓口での相談も受け付けています。

メイトム宗像

検索

助成金 スポーツ分野

- 公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団
【対象】青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励または自自行い、かつその活動を3年以上継続して実施している団体
【募集期間】～12月31日（水）※消印有効
【助成金額】事業予算の1/2で概ね100万円以内
【問合せ】公益財団法人 スポーツ安全協会「スポーツ普及奨励助成事業」係
TEL：03-5510-0022 FAX：03-5510-0020



助成金 子ども分野

- 子どもゆめ基金助成金／子どもの体験活動・読書活動
【対象】子どもの健全な育成を図ることを目的とした、次の活動に対する助成
①子どもを対象とする体験活動や読書活動
②子どもを対象とする体験活動や読書活動を支援する活動
【募集期間】郵送の場合～12月3日（水）※消印有効
電子申請の場合～12月5日（金）
【助成金額】1件あたりの標準額：50万円（市町村規模）、100万円（都道府県規模）、300万円（全国規模）
【問合せ】独立行政法人 国立青少年教育振興機構
TEL：03-5790-8117, 8118 FAX：03-6407-7720
E-mail：yume@niye.go.jp

助成金 環境分野

- 2015年度 エフコープ環境助成金
【対象】福岡県内で環境に配慮した活動を行い、申請時に1年以上の活動実績がある団体
【募集期間】～11月30日（日）※必着
【助成金額】1団体1件30万円が上限
【問合せ】エフコープ生活協同組合 組合員活動部内 環境助成金事務局
TEL：092-947-9003
E-mail：koho@fcoop.or.jp



セミナー 知って・くする！NPO・NPO法人入門講座《全2回》

- 団体の自立と継続のための「人づくりでまちづくり講座」
【日時】第1回 基礎編 1月22日（木）
第2回 運営編 2月2日（月）いずれも19時～21時
【場所】メイトム宗像 202 会議室
【講師】永田 賢介さん（NPO 法人アカツキ 代表理事）
【対象】市民活動実践者や関心のある人
【申込締切】平成27年1月15日（木）
【定員】30人
【参加費】無料
【問合せ】宗像市 コミュニティ・協働推進課 市民活動係
TEL：0940-36-0311

助成金活用事例

助成金で夢をふくらませて

事例1 NPO 法人 むなかた子ども劇場

毎年「子どもゆめ基金」を申請し、ドラマスクールやキャンプに活用しています。これがなくなると参加費用が高くなったり、規模を小さくしたりと体験活動が縮小してしまうので、大いに助かっています。総会で、活動案を立ててもその時点で助成が決まっておらず、予算に組み込むことができないのが悩みです。



問合せ TEL：0940-32-7585（志岐）

事例2 あったかママすぽっと

一般財団法人グリーンコープ生協ふくおかが募集する「福祉活動組合員基金」を利用しています。この助成金のことは、組合員向けのお知らせを見て初めて知りました。助成決定は、グリーンコープの組合員がするので、活動を応援してくれる温かさがあります。同じ目線で話を聞いてもらえて、励まされます。

新規に活動を始めた頃は、年間計画がなかなか立てにくく、活動内容も変更することが多かったのですが、団体への助成なので基本的な主旨が同じであれば、問題なく使えるところがとてもありがたかったです。助成金は事業の運営資金や物品の購入、催しの費用などに活用できます。活動を後押ししてくれるこの助成金にとても感謝しています。

問合せ TEL：0940-34-8228（内田）

市民活動の

川柳
コーナー

ボランティア 金も力も 集めたい 街がで き ムナカタシヨウ

「ふらぐ」は常時、
皆さんからの情報を募集!!

▼情報はこちらまで
munakata@mcforum.jp「むなかた市民フォーラム情報係」

市民活動中のひとコマや、想い出、川柳などをお寄せください。〒住所、氏名（ペンネーム可）、電話番号を明記の上、ご応募ください。

発行/宗像市市民活動・NPOボランティアセンター
住所/福岡県宗像市久原180 メイトム宗像
電話/0940(36)0311 FAX/0940(37)4101

編集/むなかた市民フォーラム
URL / <http://kouryuukan.com>
E-mail/meitomu@city.munakata.fukuoka.jp

窓口時間/8:30～17:00
休日/第1土曜日
日曜日、祝日

むなかた NPO ボランティア情報紙

ふらぐ

No.4

2014年11月発行

テーマ

ひと

「人」

人をつなぐ仕組みを
を考える。

ふらぐの由来

「ふらぐ」は、旗印。情報源の発信、この旗の下に集い繋がる！という意味が込められています。

「ふらぐ」は、NPO・ボランティア・市民活動の実践者を対象とした情報紙として、活動に役立つ情報をお伝えします。
今回は「人」がテーマ。「どう人をつなぐのか」を考えてみました。
うまく活動を広げるためのヒントをみなさんにご紹介します。

ボランティアを活かして “ほしぞら”の運営

宗像ユリックスプラネタリウムの頭文字をとって名付けたNPO法人エム・ワイ・ピー。2002年から全国のトップを切ってNPOによる“ほしぞら”の運営をしています。「みんなのプラネタリウムに」との思いで、市民の声を活かした活動をしています。
ボランティアの「ほしぞらスタッフ」と一緒に行う運営について職員 角田佳昭さんと小野田淳子さん（写真）に聞きました。



Q1 プラネタリウムの運営について教えてください。

プラネタリウムは職員4人、アルバイト2人、ほしぞらスタッフ52人で、投影や観望会、年5回のほしぞらウオッチングと小学生向けの企画運営などを行っています。プラネタリウムの運営を行っている職員には、投影プログラムの制作から、投影時の解説など、専門的な技術が必要になります。



Q2 全国的にも珍しいプラネタリウムでのボランティアについて教えてください。

ほしぞらスタッフは月1回の定例会で意見を出し合い、観望会や小学生向け教室のお手伝いをしています。実はほしぞらスタッフの半数以上は、市外からの参加です。マニアの集まりというわけではなく、人を喜ばせることが好きな人の集まりです。設立時は28歳だった平均年齢が、現在は38歳となり、市内の市民活動の中では若い人が多いのが特徴です。ライフスタイルが大きく変わる年代に、長く関わってくれ嬉しいです。



ほしぞらウオッチングの様子

スタッフとして長く関わることができるヒケツをほしぞらスタッフの山田明さんに聞きました。

この活動の魅力は、大好きな星に関わりながら、子どもたちの喜びや驚きの瞬間を共有できることです。普段の生活では会うことのないさまざまな人に触れ合えることも魅力です。また、やってみたいと私たちから提案したことを、職員が真剣に考え、取り入れてくれることにもやりがいを感じています。



ほしぞらスタッフと一緒に作った
クリスマス投影プログラム

定例会ではいつも4時間みっちり話し合い、延長することもあるそうです。納得するまで意見を出し合い、交流することに時間をとっています。また、スタッフは関わる人全ての明日が元気になるように心がけていました。ほしぞらスタッフを大切に思う気持ちが話の中で感じられ、私の心を温かくさせました。宗像ユリックスプラネタリウムでは、スタッフの心遣いと、活動を楽しむ笑顔が、星を輝かせています。
（雪松 直子）

問合せ NPO 法人 エム・ワイ・ピー TEL：0940-37-2394

ちょっとお役立ち情報!!

人と人をつなげる V-net

V-net とは

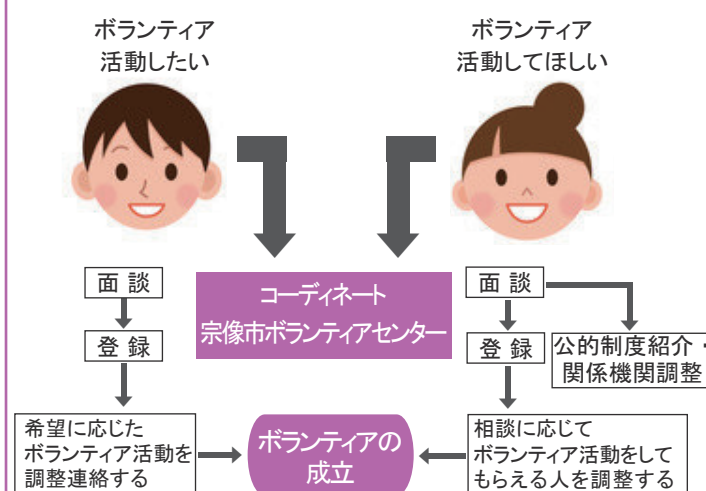
みなさん、宗像市ボランティアネットワーク、通称「V-net」を知っていますか？ V-net は、宗像市の委託により宗像市ボランティアセンターが運営しています。ボランティアしたい人（提供者）と、してほしい人（依頼者）を個別に登録して、依頼内容に基づき提供者と依頼者をつなぎボランティア活動の支援をしている取り組みです。（団体登録も可能）

V-net は、平成 14 年にスタートし、現在、サポートするボランティアの分野は、福祉、保健・医療、環境、観光、国際交流、まちづくり、子ども、学習ボランティアと多岐にわたります。また、提供者の登録数は、個人が約 500 人、団体は約 80 団体、依頼者は個人が約 80 人、団体は約 150 団体です。

まだ V-net に登録していない人や団体は、ぜひこの機会に登録をしてみてください。活動が一段と広がるのが期待できます。

人のつながりなくして、活動は成り立たないものです。今回は人と人をつなぎ仕組み、宗像市ボランティアセンターの「V-net」に注目しました。

ボランティア活動成立までの流れ



私たちがコーディネートします！

どのような人をどのような活動にコーディネートすればよいか利用する人の立場で考えています。そのため、登録時は必ず面談をします。その人や団体のことを丁寧に聞き、安心でき、気持ちよく活動できるようなボランティアコーディネートを心がけています。どのようなことでも気軽にお問い合わせください。

問合せ

宗像市社会福祉協議会 宗像市ボランティアセンター
TEL : 0940-37-4100 FAX : 0940-37-4101
E-mail : v-net@syakyo.munakata.com

いつも助かっています♪ 活用事例／プリズム

8月末に実施した映画上映会のボランティアスタッフをお願いしたところ、ボランティアは初めてという人から経験豊富な人まで幅広く紹介してもらいました。動機は映画がおもしろそう、ボランティアをしてみたいなど様々です。

ボランティアセンターでは、単にボランティアをお願いするだけでなく、活動の相談に乗ってもらっている感じがして心強いです。いつの時点でPRするのがよいかのアドバイスや、興味のありそうな人へ連絡もしてくれます。私たちの知らない年齢層へのPRもしてくれるので、多様な視点もうまれ、活動の幅が広がりました。ボランティアは個々の集まりということではなく、一つのチームのような一体感があります。これはきっとボランティアセンターのスタッフが丁寧な案内をしているから生まれるものだと思います。

問合せ

お母さんたちの相談サービス プリズム TEL : 070-5277-7588（事務局）



ボランティアに支えられた上映会

地域
げんき
最前線!
vol. 4

子どもの成長が大人をつなぐ

暮らしの学校「だいだらぼっち」

親元を離れ泰阜村の学校に通いながら共同生活を行う「だいだらぼっち」。

毎年全国各地より小学3年生から中学3年生まで 20 人ほどの子どもたちがこの場所で1年間暮らします。事業が始まってから 29 年間で述べ 440 人の子どもたちが卒業しました。

はじまりは1枚の白紙から

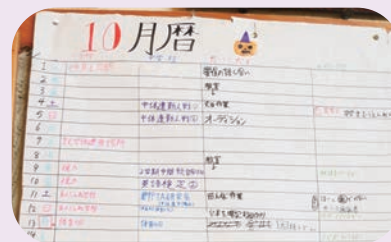
4月1日に全国から集まってきた子どもたちが1番最初にやることは1枚の白紙に1年間のスケジュールを書き込んでいくこと。ここには決められたプログラムはありません。子どもたちが話し合って1年間のスケジュールを自主的に組み立てます。1年の年歴が決まると月歴、週歴そして日歴まで落とし込んでいきます。毎日のごはんづくりや掃除・洗濯、薪割りや風呂焚きなど生活に必要なことも子どもたちの仕事です。もちろん、暮らしに必要な仕事だけではなく遊びも自由に計画できます。

平日は学校に通っているので、子どもたちは休日を利用して登山や川下りなど自由にやりたい遊びを楽しみます。ここでは自分がやってみたいことには何にでもチャレンジできる環境があるのです。

子どもと一緒に成長する「相談員」

子どもたちのチャレンジをそっと陰から支えるのが 18 人のスタッフ。キャンプの現場から事務作業、畑、田んぼ、薪作業までなんでもこなす精鋭部隊。村外からのスタッフも泰阜村民として根付き、村の一員として地域に溶け込んだ生活をしています。

スタッフは先生という立場ではなく「相談員」。皆それぞれニックネームを持っており、子どもからはそのニックネームで親しみを込めて呼ばれています。このような工夫が子どもたちとの関係を築くのに大きく影響しています。



掃除・洗濯、薪割りや風呂焚きなど生活に必要なことも子どもたちの仕事です。もちろん、暮らしに必要な仕事だけではなく遊びも自由に計画できます。



事例
団体

NPO法人 グリーンウッド自然体験教育センター

長野県下伊那郡泰阜村

日本の豊かな自然環境を活用した自然体験活動を推進し、青少年の健全育成を目的に活動する NPO 法人。子どもたちや青少年が「心の豊かさ」や「生きる力」を育んでいくことを支援するために多彩な自然体験教育プログラムを実施。

山村留学を可能にする仕掛け

自主事業で収益を生み出す

自治体が主体で行う山村留学は財源の面から長く続かないことが多い中、グリーンウッドの山村留学は 29 年も続いています。活動を持続可能にするのはグリーンウッドが事業費の 70% 以上を自主財源でまかなっていることにあります。主な収益源は夏と冬に開催される子ども山賊キャンプ事業。

全国から毎年 1000 人以上の子どもが集まるこの事業が収益の柱となっています。

高齢者は地域の先生

地域には、その風土によってつくり出された独自の生活文化があり、学ばべき暮らしの知恵が豊富に存在しています。その暮らしの知恵を持っているのは昔からこの地に住む高齢者。地域行事や農作業、陶芸や木工などのものづくり教室など地域の高齢者を子どもたちの先生として受け入れています。これは子どもにとって貴重な学びになり、お年寄りにとっても「生きがい」へとつながっています。



取材ノート

この村には、子どもたちが学び、成長していく姿を喜び合うことで、大人たちが繋がっていくという地域の姿がありました。薪割りの仕事に分かりやすい例です。まったく経験のない薪割りに戸惑い、手こずる子どもたち。それが、やがて楽しい作業として出来るようになっていく。卒業する頃には薪割りが1番楽しかったと答えるそうです。「だいだらぼっち」の運営に取り組んできた大人たちも、同



じょうな体験があったのではないのでしょうか。人材が育ち、繋がっていくには、こうした“ナマ”の体験が大きな力になることを改めて気付かされました。（立花 祐平）